

[子どもと教育を守る
高石市民の会] 結成総会
3月22日(日)午後2時
とろしプラザ

泉北教育

NO.1999 2015.3.9
発行 泉北教職員組合
〒594-0071 和泉市府中町6-12-2
0725-41-1953 Fax0725-44-6570
E-mail senboku@gf6.so-net.ne.jp

学びでつながる子どもたち ③

新歓フェスタの講師の川淵和美先生(吹田市・六年目)の
実践の一部をご紹介します。お読み下さい。

10歳の節目に、「いのちと
からだの学習」に取り組んだ。

子どもたちと話をすることで、
男女や個人差はなぜ?という
疑問から染色体の話が出てき
た。そして染色体の異常で起
こる障害の一つにダウン症が
あることから、クラスにいる
ダウン症の咲について学習し
ようということになった。

まず咲について「?」と思
うことを出しあった。「なん
で靴をはくのや着替えが遅い
の?」「なぜずっと教室に入
れないことがあるの?」
そこでダウン症の特性や行
動の特徴などを学習した。
「それで咲はあいう行動をと



るんだ」「これは咲にあては
まらない」「子どもたちは、ダ
ウン症の特性を咲にあてはめ
るのではなく、咲をもっと知
る手がかかりとしていた。

次の時間、ゲストティーチャー
として咲の母に来てもらった。
ダウン症の話、咲が生まれた
頃のことやかかった病氣、成
長の様子を丁寧に話してくれ
た。子どもたちは食らいづく
ように聴き、質問をぶつけて

いた。

よく気が付き、咲の先回り

をしていた武司は「咲は動き
がにぶかったりして、本当は
ずっとできるのにいけない...」

でも一生懸命やっている咲が
すごい。だからぼくたちも咲
が一人でできるものがあつた
らなるべく一人でさせた方が
咲のためになると思う」と感
想に書いた。

その後、「咲、どうかに行
くときはちゃんと行ってから
やで」「今は一人でやろうと
している、待とう」と、子ど
もたちのかわり方が変わっ
ていった。押し付けや身勝手
な「思いやり」でなく、学習
を通じ理解を深めることで、
真に支えあうとはどういうこ
となのか考えたからだと思う。

今、教師の忙しさが問題に
なっている。授業づくりや子
どもと向き合う時間が無い。
そんな現実の中でぶれてしま
いそうになる私を、ともに学
ぶ仲間が存在が引き戻してく
れる。子どもたちが、学びの
中に希望を見いだし、学びで
つながるそんな授業を目指し、
仲間とともに学び続ける教師
でありたい。

高
石
市

『パワー・ハラスメントの防止に関する指針』より

パワー・ハラスメントとなりうる言動例

□攻撃する

- ・机を叩いたり、書類を投げつける等、相手を脅すこと。
- ・「俺に恥をかかせる気か」「教師として不適格だ」等と適正な指導のレベルを超えて激しく叱責すること。
- ・他の教職員の前で大声で命令したり、声高に叱る等、見せしめに類する言動をすること。

□強要する

- ・学校の方針や共通理解した内容とは違う、独善的なやり方・考え方を教職員に無理矢理押し付けること。

□妨害する

- ・故意に仕事の指示を何度も変更すること。

パワー・ハラスメントをしないために

教職員が認識すべき事項

パワー・ハラスメントは、これを行っている教職員に自分がパワー・ハラスメントをしているという自覚がない場合があるという認識を持つこと。

校務と関係のない、あるいは指導の範囲を超えた感情にまかせた言動は、パワー・ハラスメントになりうる認識を持つこと。

「口が悪いのは愛情の裏返し」「毒舌も個性」等と思い込まないこと。

ご相談は今すぐ組合に

あ な た も 泉 北 教 職 員 組 合 へ